



Hiroshima Associated Repository Portal

## HARP(広島県大学共同リポジトリ)に 参加して得られたもの

広島市立大学附属図書館 申請 真弓

平成20年度CSI委託事業報告交流会

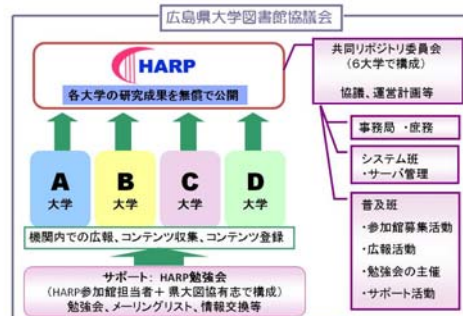
平成21年7月9日～10日

1



## HARPとは

- HARPとはHiroshima Associated Repository Portalの略称で、広島県大学図書館協議会加盟館が共同で構築している機関リポジトリのこと。現在は12大学が参加。
- 2008年4月から稼働を開始。



2

## 共同リポジトリのメリットは

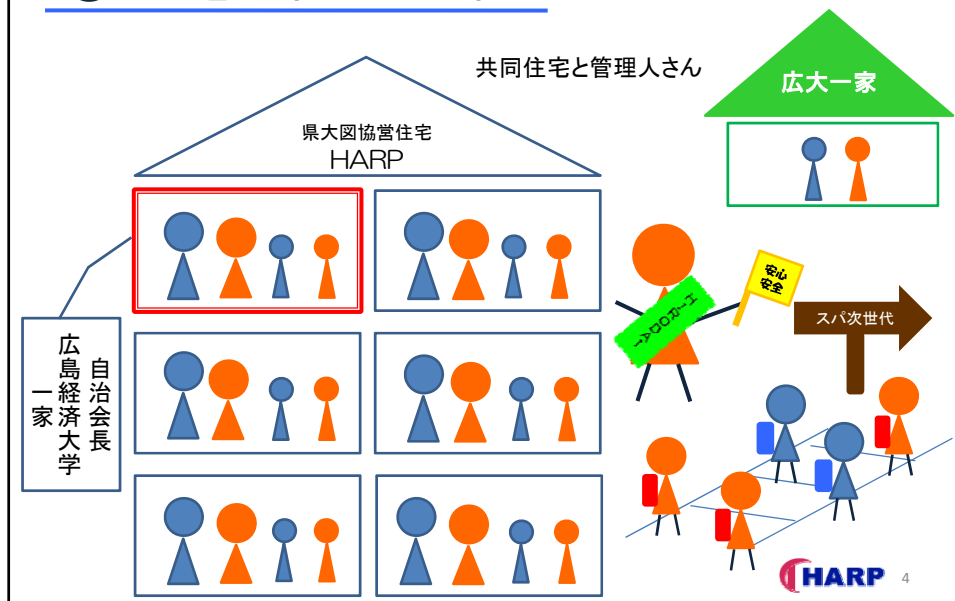
- コストを最低限に抑えることができる。
- 知識の共有や登録作業の協力が得られる。
- 参加館同士の連帯感がある。  
→ 困った時はメーリングリストで解決！
- 共同のためやらないといけない仕事もあるが、逆に他館が担当してくれる部分もある。

### HARPの特徴

- ① 力を合わせて運営
- ② 費用は分担
- ③ 個性はカスタマイズで



## ① 力を合わせて運営



## ② 費用は分担

(単位:千円)

年間運営経費	総経費	1大学の負担金額
サーバー保守費	252	20
機器更新積立	100	10
合計	352	30

システム

- ・ ソフトウェア : DSpace
- ・ サーバ保守 : 業者委託
- ・ システム管理 : 共同IR委員会システム班



## ③ 個性はカスタマイズで

- 参加機関ごとのスタイルシートの適用
- 参加機関を絞り込んだ検索
- PDFカバーページに参加機関名を追加
- 各参加機関の担当者に簡易的な管理者権限を付与(自機関のサブコミュニティやコレクション・メタデータ・ビットストリームの自由な追加・更新・削除が可能)
- 参加機関ごとのbaseURLの作成

※ 登録するコンテンツの種類は各大学の方針に任される。



The screenshot displays the HARP (Hiroshima Association of University Libraries) website. The main content area shows search results for 'Hiroshima Bunka Gakuen University'. The search criteria are set to 'Hiroshima Bunka Gakuen University'. The results list two items:

- 1. 社会情報学部 [7]
- 2. 看護学部 [115]

The interface includes a search bar, navigation tabs (ヘルプ, ヘルプ(管理者専用), パスワード変更), and a sidebar with various utility links. Logos for partner institutions like 比治山大学, 広島経済大学, and 広島国際学院大学 are visible at the top.

## 活動を支えているのは・・・



## 各大学担当者の心境(勉強会参加当初)

- 予算も要員もないので、本学では無理だろう。
- とりあえず現状や知識だけでも蓄積しておこう、話だけでも聞いておこう。
- 参加して大丈夫なのだろうかという不安。
- 共同でリポジトリなんて本当にできるの？
- 紀要が登録できればいいや。

半信半疑で、全体的に雲をつかむような感じ



右も左もわからず、不安でした

## 参加館の実際(担当者数)

各大学のリポジトリ担当者数(兼務)  
図書館職員数(非常勤、契約職員等含む)

尾道大学	1名 / 6名	広島文化学園大学	2名 / 5名
広島国際大学	3名 / 19名	広島文教女子大学	1名 / 5名
広島国際学院大学	2名 / 6名	広島経済大学	3名 / 10名
広島女学院大学	1名 / 7名	日本赤十字 広島看護学校	2名 / 2名
広島工業大学	1名 / 10名	比治山大学	2名 / 5名
広島市立大学	2名 / 11名	県立広島大学	3名 / 22名

## 参加館の実際(広島市大の場合)



～担当2名。他業務との兼務～

### 【コンテンツ収集episode】

- 1 本学所属教員1人1コンテンツ登録を目指して
- 2 登録するコンテンツ、とりあえず様々な種類にチャレンジ
- 3 継続的に収集できる仕組みを求めてアタックするも・・・
- 4 コンテンツを登録することにより、その分野の会議やイベントの情報に強くなって会話が弾む。
- 5 共著者を見ていると先生同士の関係が見えてくる・・・！？



目標：IRDBのなめらか右上がり曲線

野望：リポジトリをきっかけにできた教員との関係で、図書館の様々な事業が展開できるようになりたい。

HARP 11

## 各大学担当者の心境(リポジトリについて)

- コンテンツ数は少なくとも、登録しない限り利用者は読めないなので、小規模大学にもやりがいがあると感じている。
- 教員とのコミュニケーションがより深くなった。
- 積極的に「どうやったらコンテンツが収集できるか」ということについて考え、取り組むようになった。
- 紀要以外のコンテンツでも登録したいものが出てきた。
- 自館のOPACにリンクを貼ったりして、登録されたものが利用されるように工夫をするようにしている。
- ログの結果を教員にフィードバックすることにより、リポジトリの理解を深めたい。

HARP 12

## 各大学担当者の心境(勉強会について)

- 一つ一つ知識やノウハウを学び、少しずつわかってきて、だんだん安心した。
- 参加館同士の交流によって、何とかなるだろうという気持ちになった。
- 予想以上に容易く、速く実現できたことは大きな驚きだった。共同の力はすごいと実感している。
- 勉強会はリポジトリ以外のことも困った時には色々助言をもらえる場であり、その存在がとてもありがたい。
- 勉強会・ML・Googleグループの組み合わせで、離れていても一緒に仕事をしているという実感が得られる貴重な場となっている。



勉強会・共同リポジトリに参加してよかった！

 HARP 13

勉強会

各大学担当者との  
「顔が見える」密接なつながり

かけがえのない  
相談相手／情報源へ



 HARP 14

## 参加館の実際(広島市大の場合)



### 【HARP参加後の変化】

- コンテンツ収集において、教員との関係が密接になり、特に各教員の研究が身近に感じられるようになった。
- HARPをきっかけに多くの大学図書館関係者と知り合いになれ、情報が多くもたらされるようになり、様々な面で刺激を受けている。
- 機関リポジトリやオープンアクセス運動、著作権などの国内や海外の動向について情報収集に熱心になった。

## 得られたものは・・・

リポジトリのコンテンツはもちろん

教員との  
密接な関係

個人スキル  
アップの  
意欲や貴重  
な経験

県内他大学  
との  
強力な関係

日本全国の  
関係者との  
交流





## 今後の課題

- コンテンツ数・コンテンツの種類を増やすこと。
- 学内でのHARPの知名度を上げること。
- HARPの参加館の変更は少なくともメンバーの変更は生じているので、引き継ぎの問題。
- 人員・システム環境・その他様々な時流に、共同リポジトリというコミュニティがどのように柔軟に対応できるかということ。



## HARPに期待すること

- 今後も継続的な勉強会を開催してほしい。
- 顔の見えるつながりでいたい。
- 気軽に参加・相談できる場であってほしい。
- 強力な仲間意識に励まされながら、モチベーションを上げていきたい。
- 共同の強みに磨きがかかることに大きな期待を持っている。
- 大学の垣根を越えてリポジトリを中心に色々なことが話し合える、助け合える場であってほしい。
- お互いにフォローしながら、HARPを維持・継続していくことに期待する。

育て育てられる機関リポジトリ。  
HARPも成長し続けます！



問い合わせ先

HARPについて [toshoseibi-repo@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:toshoseibi-repo@office.hiroshima-u.ac.jp)

私への問い合わせは [nakauke@lib.hiroshima-cu.ac.jp](mailto:nakauke@lib.hiroshima-cu.ac.jp)